

ニッポン名城 技めぐり

城から学べる
“Construction”

Vol. 10

豊臣政権時代 徳川政権時代(慶長年間) **徳川政権時代(元和年間以降)^{※1}** 幕末

「一国一城令」により城造りが制限され、城の機能は軍事目的から大名のステータスを示すものへと変化

会津若松城

所在地	福島県会津若松市
築城年	1592(文禄元)年
築城主	蒲生氏郷
主な改修者	加藤明成(再建)
保存状態	蒲生氏郷が築城し、加藤明成が同じ天守台の上に天守を改築。明治期まで残っていたが、戊辰戦争後に天守が取り壊され、石垣・土塁のみが現存(現在の天守は1965(昭和40)年にRC造で復元)。

幕末に激戦の舞台となった、東北地方最大の近世城郭

1592年に会津に移封された豊臣家臣・蒲生氏郷が、それまであった城を本格的な近世城郭に改修し、城下町も整備したのが現在見られる会津若松城の原型とされる。その後、1611年の会津地震で天守が倒壊。伊予松山からこの地に転封となった加藤嘉明とその子・明成が二代にわたって大規模な改築事業を行い、1639年に東北地方では唯一となる層塔型の五重天守を再建した。戦のない太平の世に築かれたにもかかわらず非常に強固な構造で、幕末の戊辰戦争では新政府軍によって無数の砲弾を撃ち込まれながらも崩れることなく耐え抜いた。



1592年頃に蒲生氏郷が築いた東北地方初の天守台。野面積み^{※2}の古風な石垣で、勾配がきわめて緩い

続きは動画をチェック!



日本の建築史を専門とする広島大学名誉教授・三浦正幸教授の解説動画をこちらからご覧いただけます。

三浦正幸教授…東京大学工学部建築学科卒。建築学者、工学博士、一級建築士。NHK大河ドラマの建築考証担当、城郭や社寺建築に関する著書多数。

